# 職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年	·月日 I	│ 校長				所在地			
麻生外語観光&ブラ	イダル専	平成3年1月		瀧口			312-0016 福岡市博多区博多!	駅南1-14-17			
門学校 設置者名		設立認可年		代表			92-415-2293	所在地			
	- 65						320-0018				
学校法人麻结		昭和26年3月			麻生 健	(電話) (	福岡県飯塚市芳雄6 )948-25-5999				
分野		認定課程名		認定学科名			士認定年度	高度専門士認定	E年度		<u>門課程認定年度</u>
文化·教養	文化	上教養専門課程 ———————	海外	外ビジネス	(科	半成2	21(2009)年度	_		半成20	6(2014)年度
学科の目的	英語、第2	外国語、高度なITス <sup>は</sup>	テルを習得し、	国内外を問	引わずグロ-	ーバルなフィ-	ールドで活躍するビジ	ネスパーソンを育成す	る。		
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)		な検定:実用英語技能 低下、進路変更や経済					退率は10%となってし	<b>いる</b> 。			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必	要な総授業時 4位数	特数又は総	講	義	演習	実習	実	<b>実験</b>	実技
2	昼	※単位時間、単位いずれ かに記入	*	単位時間	1,260	単位時間単位	1,365 単位時間 単位	40 単位時間	C	D 単位時間 単位	0 単位時間
生徒総定員	生徒到	実員(A) 留学生	上数(生徒実員の		留学生害	<sup>单位</sup> 引合(B/A)	<b>平</b> 四	平位	ļ	平位 —	- 平位
80 人	22	: A	2	人	9	%					
	■卒業者		:	32	ļ	人					
	■就職希 ■就職者		:	27 27		<u> </u>					
	■地元就	職者数(F)		12		<del>\( \)</del>					
	■就職率 ■就職者	(E/D) に占める地元就職者	·の割合 (F/E)	100		%					
				44		%					
	■卒業者	に占める就職者の割	合 (E/C)	84		%					
	■進学者	数		0		<del>Ž</del>					
就職等の状況	■その他	; )帰国者: 2人									
	アルバイ	F:1人									
	就職斡旋	希望せず:2人									
	希望する	業界(企業)と個々(	の適正を見定	Èめ、指導、	、助言を与	える。					
	(令和	4 年度卒業	者に関する令	和5年5月	1日時点の	情報)					
		TWO 44 CD 665									
		職先、業界等									
	(令和4年度	[卒業生]	* *								
	(令和4年度		業等								
	(令和4年度 物流、貨	要卒業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第	三者評価:				無				
第三者による	(令和4年度 物流、貨	『卒業生) 物、ホテル、一般企	三者評価:					: /亦公田 > 網載 ,			
第三者による 学校評価	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合	要卒業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第	三者評価:		受審年月:		評	価結果を掲載した ームページURL			
学校評価 当該学科の	(令和4年度物流、貨 制工を関の ※有の場合	を業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 5、例えば以下について 評価団体:	三者評価: 任意記載		受審年月:		評	価結果を掲載した ームページURL			
学校評価 当該学科の ホームページ	(令和4年度物流、貨 制工を関の ※有の場合	理卒業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 よ、例えば以下について	三者評価: 任意記載		受審年月:		評	価結果を掲載した ームページURL			
学校評価 当該学科の	(令和4年度 物流、貨 ■民間の ※有の場合	容楽生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 s、例えば以下について 評価団体: sojuku.ac.jp/aftc/busi	三者評価: 任意記載		受審年月:		評	価結果を掲載した ームページURL			
学校評価 当該学科の ホームページ	(令和4年度 物流、貨 ■民間の ※有の場合	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 s、例えば以下について 評価団体: ojuku.ac.jp/aftc/busi 立時間による算定)	三者評価: 任意記載		受審年月:		評	価結果を掲載した ームページURL	2 665	E MM /+- D± RR	
学校評価 当該学科の ホームページ	(令和4年度 物流、貨 ■民間の ※有の場合	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: iojuku.ac.jp/aftc/busi 立時間による算定) 総授業時数	三者評価: 任意記載			巡拳阵拗	評	価結果を掲載した ームページURL		5 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	(令和4年度 物流、貨 ■民間の ※有の場合	(卒業生) 物、ホテル、一般企 か	三者評価: 任意記載 ness/	と実験・実習	習・実技の	授業時数	評	価結果を掲載した ームページURL	,	0 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	(令和4年度 物流、貨 ■民間の ※有の場合	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: sojuku.ac.jp/aftc/busi 立時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業	三者評価: 任意記載 ness/ 等と連携した	と実験・実習	習・実技の	授業時数	評	価結果を掲載した ームページURL	105	0 単位時間 5 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	(令和4年度 物流、貨 ■民間の ※有の場合	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: sojuku.ac.jp/aftc/busi 立時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業	三者評価: 任意記載 ness/ 等と連携した 等と連携した 授業時数	≿実験・実 <b>を</b> と演習の授業	習・実技のi 業時数		詳 才	価結果を掲載した	105 1, 185	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	(令和4年度 物流、貨 ■民間の ※有の場合	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: sojuku.ac.jp/aftc/busi 立時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業	三者評価: 任意記載 ness/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等	≿実験・実覧 ≿演習の授業	習・実技の 業時数 ∵必修の実順	験・実習・実	計ポポ	価結果を掲載した	105 1, 185	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL	(令和4年度 物流、貨 ■民間の ※有の場合	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 t、例えば以下について 評価団体: iojukuac.jp/aftc/busi 立時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業	三者評価: 任意記載 ness/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等 うち企業等	≿実験・実績 ≿演習の授業 きと連携した きと連携した	習・実技の 業時数 こ必修の実⊪ こ必修の演習	験・実習・実 習の授業時数	計 オ 対 を 対 を 対 を を を を を を を を を を を を を を	価結果を掲載した	105 1, 185 0	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 5 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した	(令和4年度 物流、貨 ■民間の ※有の場合	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 t、例えば以下について 評価団体: iojukuac.jp/aftc/busi 立時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業	三者評価: 任意記載 ness/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等	≿実験・実績 ≿演習の授業 きと連携した きと連携した	習・実技の 業時数 こ必修の実⊪ こ必修の演習	験・実習・実 習の授業時数	計 オ 対 を 対 を 対 を を を を を を を を を を を を を を	価結果を掲載した	105 1, 185 0	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況(A、Bいずれか	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 t、例えば以下について 評価団体: solukuac.jp/aftc/busi 立時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必修	三者評価: 任意記載 ness/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等 うち企業等	≿実験・実績 ≿演習の授業 きと連携した きと連携した	習・実技の 業時数 こ必修の実⊪ こ必修の演習	験・実習・実 習の授業時数	計 オ 対 を 対 を 対 を を を を を を を を を を を を を を	価結果を掲載した	105 1, 185 0	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 5 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等をと連携した決 実習等の実施状況	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 t、例えば以下について 評価団体: cojuku.ac.jp/aftc/busi 立時間による第定) 総授業時数 うち企業 うち必修 (うち企	三者評価: 任意記載 ness/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等 うち企業等	≿実験・実績 ≿演習の授業 きと連携した きと連携した	習・実技の 業時数 こ必修の実⊪ こ必修の演習	験・実習・実 習の授業時数	計 オ 対 を 対 を 対 を を を を を を を を を を を を を を	が個結果を掲載した 一ムページURL	105 1, 185 0	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 5 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況(A、Bいずれか	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 t、例えば以下について 評価団体: さらjuku.ac.jp/aftc/busi 立時間による第定) 総授業時数 うち企業 うち必修 (うち企	三者評価: 任意記載 ness/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等 うち企業等	と実験・実 と演習の授∮ を連携した よと連携した したインター	習・実技の打業時数 **年数 **企必修の実験 **で必修の演習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	験・実習・実 習の授業時数) の授業時数)	計 オ 対 を 対 を 対 を を を を を を を を を を を を を を	価結果を掲載した	105 1, 185 0	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 5 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況(A、Bいずれか	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企  評価機関等から第 た。例えば以下について  評価団体:  おさいによる第定)  総授業時数  うち企業  (うち企  を授業時数  うち企業  が数による第定)	三者評価: 任意記載 ・	と実験・実習の授業 を連携した よを連携したインター たて、 た実験・実験・実験・実験・実験・実施・実施・実施・実施・実施・	習・実技の打業時数  に必修の実際 に必修の演  ・ンシップ  ・・実技の  ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	験・実習・実 習の授業時数) の授業時数)	計 オ 対 を 対 を 対 を を を を を を を を を を を を を を	価結果を掲載した	105 1, 185 0	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況(A、Bいずれか	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 た。例えば以下について 評価団体:	三者評価: 任意記載 ・	≃実験・実習の授業 等と連携した たインター ご実験・実験・実験・実施・実施・実施・実施・実施・実施・実施・実施・実施・実施・実施・実施・実施・	習・実技の打業時数  に必修の実際 に必修の演  ・ンシップ  ・・実技の  ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	験・実習・実 習の授業時数) の授業時数)	計 オ 対 を 対 を 対 を を を を を を を を を を を を を を	価結果を掲載した	105 1, 185 0	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 5 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況(A、Bいずれか	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 た。例えば以下について 評価団体: さindikuac.jp/aftc/busi 立時間による第定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業	三者評価: 任意記載 ・	と実験・実習の授業 を連携したません。 を連携したインター と実験・実験・実験・実験の授業	習・実技の打業時数  に必修の実際 に必修の演 ーンシップ ・実技の 業時数	後・実習・実 習の授業時数) の授業時数) 授業時数	計 水 は た 技の授業時数 【	価結果を掲載した	105 1, 185 0	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況(A、Bいずれか	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 た。例えば以下について 評価団体: さindikuac.jp/aftc/busi 立時間による第定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業	三者評価: 任意記載 ・	と実験・実習の授が 等と連携した をはませんが、 になったインター に実験・実験・実験・実験では、 に次習の授が、 に対したが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 に	習・実技の打業時数  に必修の実際 に必修の演習・実技の対象  で変換を対象を に必修の実際 に必修の実際 に必修の実際 に必修の実際	後・実習・実 習の授業時数) の授業時数) 授業時数 授業時数	計 対 対の授業時数 ( はの授業時数	価結果を掲載した	105 1, 185 0	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況(A、Bいずれか	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 た。例えば以下について 評価団体: さらjuku.ac.jp/aftc/busi 立時間による第定) 総授業時数 うち企業 うち企業 総授業時数 うち企業 うち企業	三者評価: 任意記載 一等と連携した 等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一方の企業等 一方の企業等 一方の企業等 一方の企業等	と実験・実習の授が を連携した を主連携したインター を実験・実 で実験・実 で実験・実 をと連携した をと連携した をと連携した	習・実技の打業時数  企必修の実際 一ンシップ  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。	後・実習・実 習の授業時数) 授業時数 授業時数 検・実習・実 質の授業時数	計 対 対の授業時数 ( はの授業時数	価結果を掲載した	105 1, 185 0	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 た。例えば以下について 評価団体: さらjuku.ac.jp/aftc/busi 立時間による第定) 総授業時数 うち企業 うち企業 総授業時数 うち企業 うち企業	三者評価: 任意記載 ・	と実験・実習の授が を連携した を主連携したインター を実験・実 で実験・実 で実験・実 をと連携した をと連携した をと連携した	習・実技の打業時数  企必修の実際 一ンシップ  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。	後・実習・実 習の授業時数) 授業時数 授業時数 検・実習・実 質の授業時数	計 対 対の授業時数 ( はの授業時数	価結果を掲載した 一ムページURL	105 1, 185 0	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況(A、Bいずれか	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 た。例えば以下について 評価団体: さらjuku.ac.jp/aftc/busi 立時間による第定) 総授業時数 うち企業 うち企業 総授業時数 うち企業 うち企業	三者評価: 任意記載 一等と連携した 等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一等と連携した 一方の企業等 一方の企業等 一方の企業等 一方の企業等	と実験・実習の授が を連携した を主連携したインター を実験・実 で実験・実 で実験・実 をと連携した をと連携した をと連携した	習・実技の打業時数  企必修の実際 一ンシップ  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。  で変換のできませる。	後・実習・実 習の授業時数) 授業時数 授業時数 検・実習・実 質の授業時数	計 対 対の授業時数 ( はの授業時数	価結果を掲載した	105 1, 185 0	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況(A、Bいずれか	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第 た。例えば以下について 評価団体: さらjuku.ac.jp/aftc/busi 立時間による第定) 総授業時数 うち企業 うち企業 総授業時数 うち企業 うち企業	三者評価: 三者記載 等等と連携したた。 等等と連携数 業等 まちと連携数 業等をと連携数 企業等とと連携数 企業 はした。 ををと連携数 では、した。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	と実験・実習の授が を連携した を主連携したインター を実験・実際の授が を実験・実験の授が と実験を実施である。 をはまれている。 とまと連携したインター した後者である。	習・実技の記 業時数 と必修の実験 でレンシップの では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	後・実習・実 習の授業時数) 授業時数 授業時数 検・実習・実 第の授業時数)	計 対 対 が 技 の 授業時数 ( は の 授業時数		1, 188 1, 188 0 105 0	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況(A、Bいずれか	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企  評価機関等から第で、例えば以下について  評価団体:  おは以下について  評価団体:  おは以下について  おもりを表  うちを企業  うちを企業  うちを企業  うちを企業  うちを企業  でのでで、では、のでで、では、ので、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、	三者記載  三者記載  「中華 とと 連携 しした たまま は ままま は まままま まままままままままままままままままま	と実験・実習の授が を連携した を主連携したインター を実験・実際の授が を実験・実験の授が と実験を実施である。 をはまれている。 とまと連携したインター した後者である。	習・実技の記 業時数 と必修の実験 でレンシップの では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	後・実習・実 習の授業時数) 授業時数 授業時数 後・実習・実 の授業時数) (専修学社	計水 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対	デームページURL (1997年) (199774) (199774) (199774) (199774) (199774) (199774) (199774) (19	( ) 105 1, 185 ( ) 105 ( )	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況(A、Bいずれかに記入)	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企  評価機関等から第さ、例えば以下について  評価団体:  solukuac.jp/aftc/busi  立時間による算定)  総授業時数 うち企業 うち必能  総授業時数 うち企業 うち必能  による第定)  がな事件の理程のでの理の表案は のうち企業 である。  「では、事業を必要する。」 (「では、事業を必要する。」 「では、事業を必要する。」 「では、まままままままままままままままままままままままままままままままままままま	三者評価: 三者記載  「等等と連携 しした  「等等 投 うち と 連携 携数 企企 連携 携数 企企 連携 携数 企企 連携 携数 企企 連携 作役該者 まちちと ととる 者等 にして ままり こしろ	と実験・実習の授が を連携した を主連携したインター を実験・実際の授が を実験・実験の授が と実験を実施である。 をはまれている。 とまと連携したインター した後者である。	習・実技の記 業時数 と必修の実験 でレンシップの では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	後・実習・実習の授業時数) 授業時数 授業時数 接・実習・実 の授業時数 (専修学科	計水 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対	デームページURL (事1号) (事2号)	( ) 105 1, 185 ( ) 105 ( ) ( )	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 10 単位	
学校評価  当該学科のホームページ URL  企業等等と連携施大かに記入)  企業である。 企業できる。  企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。  のまるできる。 企業できる。  企業できる。	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企  評価機関等から第で は以いて  評価個別体:  のはははこう/aftc/busi  立時授業時数 うち企企業 うちを企  総授業時数 うちを企  総授業時数 うちを企  (うちを  でする業は  のする業は  のする業は  のする業は  のでする業は  のでする。  のでする。 のでする。 のでする。 のでする。 のでする。 のでする。 のでする。 のでする。 のでする。 のでする。 のでする。 のでする。 のでする。 のでするできる。 のでするできるできる。 のでするできるできるできる。 のでするできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできる	三者評価: 三者記載  「等等と連連時にしたたます。」 「等等とと連連時の企産連携にしたたます。」 「では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	と実験・実習の授が を連携した を主連携したインター を実験・実際の授が を実験・実験の授が と実験を実施である。 をはまれている。 とまと連携したインター した後者である。	習・実技の記 業時数 と必修の実験 でレンシップの では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	徐・実習・実習の授業時数) の授業時数) 授業時数 ・実習・実 の授業時数 ・実習・実 の授業時数 ・実習・実 の授業時数 ・事修学枠 ・事修学枠	計水水 法技の授業時数 ( 法技の授業時数 ( 会設置基準第41条第11 会設置基準第41条第15	デームページURL (第1号) (第2号) (第3号)	( ) 105 1, 185 ( ) 105 ( ) 105	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 1 単位 1 単位    里点    和    和    和    和    和    和	
学校評価  当該学科のホームページ URL  企業等と連携した況 (A、Bいずれか に記入)	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企  評価機関等から第で は以下で  評価側例体:  のははuacip/aftc/busi  立時間による第文  うち企業  うちを企業  うちを企業  うちを企業  うちを企業  うちを企業  うちを企業  で学校教師  ので学校教師  ので学校  ので学  ので学	三者評価: 三者記載  「等等と連連時にしたたます。」 「等等とと連連時の企産連携にしたたます。」 「では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	と実験・実習の授が を連携した を主連携したインター を実験・実際の授が を実験・実験の授が と実験を実施である。 をはまれている。 とまと連携したインター した後者である。	習・実技の記 業時数 と必修の実験 でレンシップの では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	徐・実習・実習の授業時数の授業時数の授業時数 授業時数 授業時数 (専修学科 (専修学科 (専修学科	対 対 対 対 対 対 対 対 対 が が が が が が が が が が が が が	デームページURL (第1号) (第3号) (第3号) (第3号)	105 1,185 105 105 105	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 4 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 1 人 0 人 0 人	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した決策の展に対した記入)	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第で、 評価機関等について 評価機関以下について 評価機関以下について にのjuku.ac.jp/aftc/busi 立 対 による第定 うちを企 を持援業時数 うちを企 を対 が、のする業は を発 が、のする業は で で で ので で ので で ので で ので で ので で ので で の	三者評価: 三者記載  「等等と連連時にしたたます。」 「等等とと連連時の企産連携にしたたます。」 「では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	と実験・実習の授が を連携した を主連携したインター を実験・実際の授が を実験・実験の授が と実験を実施である。 をはまれている。 とまと連携したインター した後者である。	習・実技の記 業時数 と必修の実験 で・主要技ののでは、 で・主要技ののでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	徐・実習・実習の授業時数の授業時数の授業時数 授業時数 授業時数 (専修学科 (専修学科 (専修学科	計水水 法技の授業時数 ( 法技の授業時数 ( 会設置基準第41条第11 会設置基準第41条第15	デームページURL (第1号) (第3号) (第3号) (第3号)	105 1,185 0 105 105 0 105	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 1 人 0 人 0 人	
学校評価  当該学科のホームページ URL  企業等等と連携施大かに記入)  企業である。 企業できる。  企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。  のまるできる。 企業できる。  企業できる。	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企  評価機関等から第で は以下で  評価側例体:  のははuacip/aftc/busi  立時間による第文  うち企業  うちを企業  うちを企業  うちを企業  うちを企業  うちを企業  うちを企業  で学校教師  ので学校教師  ので学校  ので学  ので学	三者評価: 三者記載  「等等と連連時にしたたます。」 「等等とと連連時の企産連携にしたたます。」 「では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	と実験・実習の授が を連携した を主連携したインター を実験・実際の授が を実験・実験の授が と実験を実施である。 をはまれている。 とまと連携したインター した後者である。	習・実技の記 業時数 と必修の実験 で・主要技ののでは、 で・主要技ののでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	徐・実習・実習の授業時数の授業時数の授業時数 授業時数 授業時数 (専修学科 (専修学科 (専修学科	対 対 対 対 対 対 対 対 対 が が が が が が が が が が が が が	デームページURL (第1号) (第3号) (第3号) (第3号)	105 1,185 0 105 105 0 105	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 4 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 1 人 0 人 0 人	
学校評価  当該学科のホームページ URL  企業等等と連携施大かに記入)  企業である。 企業できる。  企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。  のまるできる。 企業できる。  企業できる。	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企 評価機関等から第で、 評価機関等について 評価機関以下について 評価機関以下について にのjuku.ac.jp/aftc/busi 立 対 による第定 うちを企 を持援業時数 うちを企 を対 が、のする業は を発 が、のする業は で で で ので で ので で ので で ので で ので で ので で の	三者評価: 三者記載  「等等と連連時にしたたます。」 「等等とと連連時の企産連携にしたたます。」 「では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	と実験・実習の授が を連携した を主連携したインター を実験・実際の授が を実験・実験の授が と実験を実施である。 をはまれている。 とまと連携したインター した後者である。	習・実技の記 業時数 と必修の実験 で・主要技ののでは、 で・主要技ののでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	徐・実習・実習の授業時数の授業時数の授業時数 授業時数 授業時数 (専修学科 (専修学科 (専修学科	対 対 対 対 対 対 対 対 対 が が が が が が が が が が が が が	デームページURL (第1号) (第3号) (第3号) (第3号)	105 1,185 0 105 105 0 105	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 1 人 0 人 0 人	
学校評価  当該学科のホームページ URL  企業等等と連携施大かに記入)  企業である。 企業できる。  企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。 企業できる。  のまるできる。 企業できる。  企業できる。	(令和4年度 物流、貨: ■民間の ※有の場合 https://as	平業生) 物、ホテル、一般企  評価機関等から第で。 (うちな)  「中価機関等について  にのは、の表は以下について  にのは、の表は以下について  にのは、の表は以下について  にのは、の表は、のます。 (うちな)  「おりな)  「おりな)  「なりな)  「なりな) 「なりな)  「なりな)  「なりな) 「なりな) 「なりな)  「なりな) 「なりな)  「なりな) 「なりな) 「なりな) 「なりな) 「なりな) 「なりな) 「なりな) 「なりな) 「なりな) 「なりな) 「なりな) 「な	三者記載  「等等 投 「等等 投 「するとと連携 携数 企企連携 携数 企企連携 携数 企企連携 携数 企企連携 修従該者 等 ととととを でいる る 験門職 学位 では、る る ない では、	と実験・実習の授が になった まと連携した とままと に 実験 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	習・実技の# 業時数 と必修の実験 ニンシップの ま、実数 とととシップの で、実数 とととシップの で、表数 をなって、表面 をなって、表面 を、表面 を、表面 を、表面 を、表面 を、表面 を、表面 を、表面 を	後・実習・実 習の授業時数) 授業時数 授業時数 授業時数 (専修学科 (専修学科 (専修学科 (専修学科	対 対 対 対 対 対 対 対 対 が が が が が が が が が が が が が	デームページURL (第1号) (第3号) (第3号) (第3号) (第3号)	105 1, 185 105 105 105 105 105 105 105 105 105 10	0 単位時間 5 単位時間 5 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 1 人 0 人 0 人	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業連携の下、専攻分野における実務に関する知識、技術および技能を教授し、就職に必要な実践的かつ専門的な能力を 育成することを基本方針とする。グローバルなビジネスシーンにおいて即戦力となり得る人材育成のための、より実践的な職 業教育の質の確保を目的とし、企業との密接な連携による最新の実務を的確に反映した教育を提供する。

- (2)教育課程編成委員会等の位置付け
- ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確 保する

- ことを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果を学科内でのカリキュラム会議に報告する。
- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、カリキュラム会議においては、教育課程編成委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し、策定する。

## (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
松坂 寛則	九州マレーシア協会 事務局長	令和5年4月1日~令和6年3月 31日(1年)	1
柳原 久一郎	株式会社ブライトウェイ	令和5年4月1日~令和6年3月 31日(1年)	3
金澤 浩樹	日本通運株式会社 福岡支店 課長	令和5年4月1日~令和6年3月 31日(1年)	3
和田 菜穂	麻生外語観光&ブライダル専門学校 主任	令和5年4月1日~令和6年3月 31日(1年)	_
秋本 佐代子	麻生外語観光&ブライダル専門学校 海外ビジネス科教員	令和5年4月1日~令和6年3月 31日(1年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
  - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
    - 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
  - ②学会や学術機関等の有識者
  - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年6月15日 16:30~17:00

第2回 令和4年10月12日 15:30~16:30

## (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員からの「ネットワーク技術とオンライン会議ツールを活用した実務スキルを習得する重要性が高まっている」との意見を受け、企業連携科目であるプロジェクトベースドラーニングのシラバスを改訂し、実践的なオンライン会議の演習やビデオプレゼンテーションのトレーニングができるような内容とした。さらには、ITの基本的なコンセプト習得のためオンライン技術に関する専門家のアドバイスをもらい、新科目として「ITパスポート」を導入、ネットワーキングの基礎やITセキュリティに関する理解を深めることを可能とした。なお、IT技術領域は急速に進化していることから変化に対応できるカリキュラムの柔軟性が求められるため、常日頃から市場トレンドや業界ニーズを把握するための情報収集を実施することを確認した。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

## (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業連携の下、専攻分野における実務に関する知識、技術および技能を教授し、就職に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを基本方針とする。グローバルなビジネスシーンにおいて即戦力となり得る人材育成のための、より実践的な職業教育の質の確保を目的とし、企業との密接な連携による最新の実務を的確に反映した教育を提供する。

## (2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業と学校による教育委託契約書により、企業が選任した講師による演習を実施する。教育カリキュラムの設定並びに変更 にあたっては企業と学校とで事前に協議を行い決定する。評価は筆記試験、レポート課題提出状況や内容を踏まえた総合 評価とするが、評価基準については事前協議の上で設定する。

#### 【 授 業 科 目 】 マーケティング

【授業開設の目的】 グローバル社会におけるビジネスを理解し、トレンドの把握、顧客ニーズの解明、顧客価値を生み出 すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスを学ぶことで、国際社会に対応する人材の育成を目指す

【 授 業 科 目 】 プロジェクトベースドラーニング

【授業開設の目的】 学習を能動的なものと規定し知識の暗記にみられる受動的なものを脱却するために、自ら課題を 発見し解決していく能力を醸成

【 授 業 科 目 】Intensive English Learning Program

【授業開設の目的】 語学力向上と共に海外での生活、文化を経験することで、広い視野と複眼的な価値観を醸成

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

	件日数については代表的な5件日について記載。	
科目名	科 目 概 要	連携企業等
マーケティング	身近な分野の問題や改善点を捉えながら、外国人に接するエアラインやホテルの取り組みを参考に、マーケティング手法やツールを認識しながらワークショップを通して感覚を磨く。	株式会社ブライトウェイ
プロジェクトベースド ラーニング	ホテルや航空会社における実務例をベースに、現在のトレンドを踏まえてグループワークでプロジェクトを立ち上げ、内容のプレゼンテーションを行う。	株式会社ブライトウェイ
Intensive English Learning Program	セブ島Global Language Cebuにおいて、マンツーマン授業など 集中的な英語学習プログラムに参加し、語学力を向上させると 共に、異文化理解を深め多様性を受け入れることができるように なる。	株式会社ジージー

## 3、「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

## (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員に対して、現在就いている職務又は将来就くことが予想される、職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が、計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

#### (2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 授業でディベート、どう指導する? 連携企業等:株式会社アルク 期間: 2022年6月26日(日)13:30~16:00 対象:教員(和田 菜穂)

内容ディベートの効果と課題~ケーススタディと実践

研修名: 本当に効果的な語彙学習と、指導者として出来ること 連携企業等:株式会社アルク

期間: 2022年10月22日(土) 13:30~15:00 対象: 教員(和田 菜穂)

内容 「単語の学習」と「定型表現」を習得する方法と理論

研修名: 5ラウンドシステムの英語授業を実施するとしたら 連携企業等:株式会社アルク

期間: 2022年11月27日(日) 13:30~16:00 対象: 教員(和田 菜穂)

内容 1年間に教科書を5回繰り返すという画期的な授業方法の実践事例紹介と情報交換

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: ルーブリック評価と能動的な継続学習 連携企業等: デジタルハリウッド株式会社

期間: 2022年9月1日(木)15:30~17:00 対象: 教員(岡本 彩)

学修成果の可視化に有効な評価指標「ルーブリック」の授業タイプ別の作成方法、個別対応ツールとしての内容

「振り返りシート」の活用方法について学ぶ。

研修名: 自治体の先進事例に学ぶ「リスキリング」 連携企業等:株式会社進研アド

期間: 2023年2月8日(水)13:00~16:25 対象: 教員(和田 菜穂)

内容
行政職員のリスキル・地域企業のDX人材育成の取り組み

研修名: 授業におけるファシリテーション研修 対面授業編 連携企業等:株式会社ONDO

期間: 2023年3月15日(水)13:30~15:30 対象: 教員(和田 菜穂)

内容
ファシリテーションの場面設定、上手な意見のまとめ方、対面授業時のファシリテーションのポイントについ

<u>- 110 - て字ぶ。</u> (3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 未来の高校英語カリキュラム『ミラカリ』 連携企業等:株式会社アルク

期間: 2023年5月28日(日) 13:30~16:00 対象: 教員(和田 菜穂)

内容 英語を使う機会を最大限確保するための授業モデルの提案と実践事例紹介

研修名: JTBリスクマネジメントセミナー 2023 連携企業等: 株式会社JTB

期間: 2023年9月6日(水)15:00~16:15 対象: 教員(和田 菜穂)

内容 海外留学・研修におけるリスク管理と安全対策

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: DX時代に求められる担任力 連携企業等: 株式会社FCEエデュケーション

期間: 2023年6月30日 16:10~17:00 対象: 教員(和田 菜穂)

内容 持続可能な生徒指導への転換生徒とのコミュニケーションを図る~デジタルツールを活用した実践例

研修名: 2024年度入学生に求められる学生指導とは 連携企業等:株式会社進研アド

期間: 2023年7月21日(金)16:00~17:00 対象: 教員(和田 菜穂)

内容 入学者数減少と学力低下が専門学校教育に及ぼす影響~効果的な指導と中退予防

研修名: 変化する社会に求められる人材の傾向と分析 連携企業等:株式会社進研アド

期間: 2023年9月21日(木)16:00~17:00 対象: 教員(和田 菜穂)

内容 企業の採用経験者が示す学校教育の強化ポイントとは

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。ま た、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

### (1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者等、地域住民、高校関係者等の 参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善 を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりを行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	運営方針、事業計画、人事·給与規程、業務効率化、他
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5)学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11)国際交流	留学生の受入れ、支援体制

#### ※(10)及び(11)については任意記載。

## (3)学校関係者評価結果の活用状況

「現行設置科目の教授法やシラバスは常に改善されているが、ほとんどが対面での授業を前提としている。コロナ対策で始 まったオンライン授業は、教育のDX 化に伴い新しいスタイルの授業をデザインできるスキルを高めていく必要がある。」との 意見を受け、必要なスキル習得のため研修参加を積極的に行った。さらには麻生塾独自のプラットフォームとしてLMS 「Teachare(教える(Teach)と共有する(Share)を組み合わせた造語)」を採用、授業における実装を目指し、現在教員の勉強 会を実施している。しかし科目によるデジタル格差は否めず、教育の質の担保を目指し改善活動が必要であるため今後も継 続してスキルアップに努めていく。

### (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
大塚 加代	保護者等	令和5年4月1日~令和7年3月 31日(2年)	保護者等
髙島 妙美	卒業生	令和5年4月1日~令和7年3月 31日(2年)	卒業生
浦川 美代子	博多駅南1丁目1区 自治会長	令和4年4月1日~令和6年3月 31日(2年)	地域住民
篠崎 博	福岡県立嘉穂東高等学校 学校長	令和5年4月1日~令和7年3月 31日(2年)	高等学校関 係者
柳原 久一郎	株式会社ブライトウェイ	令和4年4月1日~令和6年3月 31日(2年)	企業等委員
今林 麻美	ANA福岡空港株式会社 旅客サービス部_旅客サービス3課 マネジャー	令和5年4月1日~令和7年3月 31日(2年)	企業等委員
倉智 和樹		令和5年4月1日~令和7年3月 31日(2年)	企業等委員
伊賀上 恵子	公益財団法人 福岡観光コンベンションビューロー 事務局長	令和5年4月1日~令和7年3月 31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

# (5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ))

URL: 公表時期: https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aftc/2023/hyoka.pdf

令和5年9月29日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方
(2)各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、資格実績、就職実績
(3)教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6)学生の生活支援	生活環境サポート、留学生キャンパスライフ、留学生ASOの就職サポート
(7)学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援(各種支援制度)
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9)学校評価	自己点検·評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	留学生入学案内、留学生学べる分野、グローバル教育、海外での大学教育
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) · 広報誌等の刊行物 · その他( ))

URL: <a href="http://www.asojuku.ac.jp/aftc/">http://www.asojuku.ac.jp/aftc/</a>
公表時期: <a href="http://www.asojuku.ac.jp/aftc/">令和5年7月31日</a>

# 授業科目等の概要

				専門課程 海	外ビジネス科)令和4年度											
	- 1	分類							授	業	方法	場	所	教	員	
		必	由	授業科目名	授業科目概要	当年次・学	授業時数	単位	講義	演習	実験・実習・実技		校外			企業等との連携
1	0			Speaking Skills IA	レベル別クラスで日常生活に必要な英会話 力を養成する	1 前	60		Δ	0		0		0	0	
2	0			Speaking Skills IB	レベル別クラスで日常生活に必要な英会話 力を養成する。前期の学習を踏まえ、英会 話力の向上を目指す		60		Δ	0		0		0	0	
3	0			English Recitation	レベル別に英語の課題文を暗記し、人前で 発表するプロセスの中で、語彙、フレーズ の習得、表現力の向上を目指す	1 後	30		Δ	0		0		0	0	
4	0			Intensive English Learning Program	GLCによるオンラインマンツーマンレッスン やグループレッスンを通して、英語脳を開 発し語学力を向上させる	1 後	60		Δ	0			0	0	0	0
5		0		英 語 検 定 (TOEIC)対策 IA *A	レベル別クラスにてTOEICの高スコア取得の ための対策授業を行う	1 前	90		0	Δ		0		0		
6		0			レベル別クラスにて「日本英語検定協会主 催実用英語技能検定」の2級取得のための対 策授業を行う	1 前	90		0	Δ		0		0		
7		0		級)対策 I A	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主 催実用英語技能検定」の準2級取得のための 対策授業を行う	1 前	90		0	Δ		0		0		
8		0		英 語 検 定 (TOEIC)対策 IB *B	レベル別クラスにてTOEICの高スコア取得の ための対策授業を行う	1 後	90		0	Δ		0		0		
9		0			レベル別クラスにて「日本英語検定協会主 催実用英語技能検定」の2級取得のための対 策授業を行う	1 後	90		0	Δ		0		0		
10		0			レベル別クラスにて「日本英語検定協会主 催実用英語技能検定」の準2級取得のための 対策授業を行う	1 後	90		0	Δ		0		0		
11	0			総合英語IA	レベルごとに基礎英文法の習得、英語で 「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」 の基礎力を養成する	1 前	60		0	Δ		0		0	0	

				専門課程 海	外ビジネス科)令和4年度											
	-	分類							授	業	方法	場	所	教	員	
		選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	当年次・学	授 業 時 数	単位	講義	演習	実験・実習・実技			専任		企業等との連携
12	0			総合英語IB	前期の学習内容をもとに、さらに高等な英 文法の習得、読解、聴解、英会話の実践練 習を行い、総合的な英語力を養成する	1 後	60		0	Δ		0		0	0	
13		0		韓国語基礎A *C	ハングル文字を学ぶことから始め、韓国語 の基礎を学び、簡単な日常会話レベルの韓 国語習得を目指す	1 前	30		Δ	0		0			0	
14		0		中国語基礎A * C	音調の学習から始め、中国語の基礎を学 び、簡単な日常会話レベルの中国語習得を 目指す	1 前	30		Δ	0		0			0	
15		0		韓国語基礎B *D	前期の学習を発展させ、より多くの日常会話フレーズを学び、より自然な韓国語会話 の習得を目指す	1 後	30		Δ	0		0			0	
16		0		中国語基礎B *D	前期の学習を発展させ、より多くの日常会 話フレーズを学び、より自然な中国語会話 の習得を目指す	1 後	30		Δ	0		0			0	
17	0			MOS演習 I A	「Microsoft Office Specialist Excel」の 取得を目指す	1 前	60		Δ	0		0			0	
18	0			MOS演習 I B	「Microsoft Office Specialist Power Point」の取得を目指す	1 後	60		Δ	0		0			0	
19		0		インバウンド 概論 * E	21世紀の国際観光産業について、訪日外国 人観光客をめぐる最近の動きや外国人から 見た日本の観光資源についての概要を掴 み、アメリカ系ホテルビジネスや外資系航 空会社の日本戦略についても学ぶ。また、 外国人から見た九州観光の魅力について調 査し、プレゼンテーションを行う。	1 前	30		Δ	0		0			0	
20		0		観光業界概論 *E	ホテル、トラベル、航空の各業界の現状ならびに各業界にどのような業務があるのか について学ぶ。	1 後	30		Δ	0		0			0	
21		0		サービス接遇 *E	「サービス接遇検定2級」の合格を目指すと ともに、接客マナーについての知識を修得 する。	1 前	60		0			0		0		
22		0		商業簿記A *F	「日本商工会議所主催簿記能力検定」の3級 合格へ向けての基礎段階として、簿記に関 する基礎を学ぶ。	1 前	60		Δ	0		0			0	

	()	大化	教養	専門課程 海	外ビジネス科)令和4年度											
	:	分類	Į						授	業	方法	場	所	教	員	
		選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	当年次・学	授業時数	単位		演習	実験・実習・実技			専任		企業等との連携
23		0		商業簿記B *F	商業簿記Aに引き続き、「日本商工会議所主 催簿記能力検定」の3級合格へ向けての基礎 段階として、簿記に関する基礎を学ぶ。	1 後	60		Δ	0		0			0	
24	0			SPI A	就職試験で実施されるSPIの中でも特に非言語分野の理解度を高め、受験に対応できる能力を身につける。	1 前	30		0			0		0	0	
25	0			SPI B	就職試験で実施されるSPIの中でも特に非言語分野の理解度を高め、受験に対応できる能力を身につける。	1 後	30		0			0		0	0	
26	0			GCB I	様々な事例について話し合うことにより、 「感謝と思いやり」を学ぶ	1 前	15		Δ	0		0		0		
27	0			社会教養IA	就職に対する基礎知識、履歴書作成、面接 練習など、就職内定へ向けての実践授業	1 前	15		Δ	0		0		0		
28	0			社会教養 I B	社会教養IAに続き、就職に対する基礎知識、履歴書作成、面接練習など、就職内定へ向けての実践授業	1 後	30		Δ	0		0		0		
29	0			就職実務	履歴書やESの作成から、実際の就職試験を 想定して、面接対策などを行う	1 後	15		Δ	0		0		0		
30			0	企業インター ンシップ	旅行会社、ホテル、ブライダルなど、各業界にてインターンシップを体験することで、職種を理解し、自分に足りないものに 気づく	1 後	40				0		0	0	0	
31	0			Speaking Skills IIA	レベル別クラスでよりスムーズな日常英会 話の運用ならびに多岐にわたる場面での英 会話力の養成を目指す	2 前	60		Δ	0		0		0	0	
32	0			Speaking Skills IIB	レベル別クラスでよりスムーズな日常英会 話の運用ならびに多岐にわたる場面での英 会話力の養成を目指す	2 後	60		Δ	0		0		0	0	
33	0			Speech	2年間の英語学習の集大成として、各自の問題意識、関心のあるテーマについてリサーチを行った内容を英語でスピーチとして発表する	2	60		Δ	0		0		0		
34	0			Graduation Report	スピーチに関連したテーマについて、英語 での論文作成を行い、まとめた内容につい て英語でプレゼンテーションをする。	2 後	60		Δ	0		0		0		

				専門課程 海	外ビジネス科)令和4年度											
		分類	į						授	業	方法	場	所	教	員	
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位		演習	実験・実習・実技			専任		企業等との連携
35	0			Intensive Writing	企業で日常的に使用する英語のビジネス文書(計画書や企画書、報告書、履歴書、電子メールなど)の作成、および英語による海外取引全般に関する内容が理解できる	2	30		Δ	0		0			0	
36		0		英語検定対策 (TOEIC)ⅡA *G	レベル別クラスにてTOEICの高スコア取得の ための対策授業を行う	2 前	60		0	Δ		0		0		
37		0		英語検定対策 (2級) ⅡA *G	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主 催実用英語技能検定」の2級取得のための対 策授業を行う		60		0	Δ		0		0		
38		0			レベル別クラスにて「日本英語検定協会主 催実用英語技能検定」の準2級取得のための 対策授業を行う	2 前	60		0	Δ		0		0		
39	0			英語検定対策 (TOEIC)ⅡB *H	レベル別クラスにてTOEICの高スコア取得の ための対策授業を行う	2 後	60		0	Δ		0		0		
40	0				レベル別クラスにて「日本英語検定協会主 催実用英語技能検定」の2級取得のための対 策授業を行う		60		0	4		0		0		
41	0				レベル別クラスにて「日本英語検定協会主 催実用英語技能検定」の準2級取得のための 対策授業を行う	2 後	60		0	Δ		0		0		
42				総合英語ⅡA	英語のビジネス文書やニュースの記事を題材として、様々なタスクを通して英語の4技能(読む・聞く・話す・書く)を総合的に身につける。	2	30		0	Δ		0		0		
43	0			総合英語ⅡB	ニュースに使われる語彙やフレーズを学び、時事英語や日常会話よりも早い英語に 慣れ、より広い範囲の英語への適応力の養成を目指す	2	30		0	Δ		0		0		
44	0			MOS演習 II	1年次の学びを基に実践的、実際的な応用演習を総合的に行うとともに、「Microsoft Office Specialist Word」の取得を目指す		60		Δ	0		0			0	
45	0			マーケティン グ	身近な分野の問題や改善点を捉えながら、 外国人に接するエアラインやホテルの取り 組みを参考に、マーケティング手法やツー ルを認識しながらワークショップを通して 感覚を磨く	2 後	30		Δ	0		0			0	0

				専門課程 海	外ビジネス科)令和4年度											
	-	分類	Į						授	業	方法	場	所	教	員	
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	当年次・学	授 業 時 数	単位	講	演習	実験・実習・実技			専任		企業等との連携
46	0			プロジェクト ベースドラー ニング	ホテルや航空会社等における実務例をベースに、現在のトレンドを踏まえてグループ ワークでプロジェクトを立ち上げ、内容の プレゼンテーションを行う	2 後	15		Δ	0		0			0	0
47		0		韓国語会話A *【	韓国語基礎A、Bで習得した語彙や文法知識 をもとに、会話練習を積むことでさらに運 用力を高める	2 前	30		Δ	0		0			0	
48		0		中国語会話A *【	中国語基礎A、Bで習得した語彙や分法知識 をもとに、会話練習を積むことでさらに運 用力を高める	2 前	30		Δ	0		0			0	
49		0		韓国語会話B * J	韓国語基礎A、Bで習得した語彙や文法知識 をもとに、会話練習を積むことでさらに運 用力を高める	2 後	30		Δ	0		0			0	
50		0		中国語会話B *J	中国語基礎A、Bで習得した語彙や分法知識 をもとに、会話練習を積むことでさらに運 用力を高める	2 後	30		Δ	0		0			0	
51		0		観光業界実務 *E	ホテル、トラベル、航空の各業界の業務に ついて実践を交え、より具体的に学ぶ	2 前	30		Δ	0		0			0	
52		0		貿易概論 *F	貿易の流れを学びながら、貿易業務で使用 される語彙、フレーズを習得する	2 前	30		Δ	0		0			0	
53	0			ビジネス実務	名刺の渡し方やお茶出しなどの、社会人と して求められるマナーを実践的に身に付け る	2 前	30		Δ	0		0		0		
54	0				時事教養や基本的教養を基に、SPI試験、適 性試験などの問題に対応できるようになる	2 前	30		0			0			0	
55	0			一般教養 B	一般教養 Aに引き続き、時事教養や基本的 教養を基に、SPI試験、適性試験などの問題 に対応できるようになる		15		0			0			0	
56	0			GCB II	著名人や偉人の人生や教訓を通して、 「志」を学ぶ	2 前	15		0	Δ		0		0		
57	0			社会教養ⅡA	会社訪問や面接試験を受ける際の事前準備、訪問・面接試験後の振り返りと反省を し、就職試験に向けての準備を行う	2 前	45		Δ	0		0		0		

	()	文化	教養	専門課程 海	外ビジネス科)令和4年度											
	:	分類	Į						授	業	方法	場	所	教	員	
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授 業 時 数	単位数	講	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
58	0			社会教養ⅡB	比較的身近な話題に関するインタラクティブディベートの活動を通して発信力や傾聴の姿勢を育てる。裁判所見学、博物館見学などのアクティブラーニングを通して、社会文化的な教養を身につける	2 後	30		Δ	0		0		0		
			合	計	58	科	目				2665			単	位時	間

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	卒業要件は次のとおりである。 (1) 当該学科の修業年限以上在学していること (2) 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けていること (3) 卒業基準検定を取得していること (4) 学年の出席率が90%以上であること 以上の要件に該当しない者は、卒業判定会議により判定を行う。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法:	学則に定める教育課程に基づき、全ての必修科目及び選択必修科目の中から指定された授業時間数の科目を履修すること。選択必修科目は、*A・*B・*C・*D・*E・*F・*G・*H・*I・*Jの区分それぞれから各コースで定める科目を選択して履修すること。	1 学期の授業期間	15 週

# (留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。